科目名			担当教員	
精神保健福祉援助演習Ｃ			小野　芳秀　ほか	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
CW5159	2	1	SR（講義）	4 年以上
履修登録条件		「精保演習Ａ・Ｂ」をすでに履修登録済みか、同時に履修登録をする方のみが履修登録できます。 ※その他、履修の前提科目は『学習の手引き』３章を参照ください。		
生成 AI 利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※社会福祉学科で精神保健福祉士国家試験受験資格取得希望者のみが受講できる科目です。

※実習受講者のスクーリングは、下記のとおり「精保実習指導 B」との組み合わせにより開講されます。実習免除者は、「精保演習Ｃ」のみの２日間８コマで開講されます（実習免除者向けの演習は、年１回のみの開講となりますので、日程調整にご注意ください）。

■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ

◆実習受講者（精保演習Ｃ：８コマ・精保実習指導Ｂ：８コマ）

【精保実習Ｂ事後指導までの流れ】

精保実習Ｂ事前指導（精保演習Ｃ－1＋精保実習指導Ｂ－1）

※精保実習 Ｂ 受講年度の４・５月頃開講

１日め　精保実習指導Ｂ－1（４コマ）

２日め　精保演習Ｃ－1（４コマ）

↓

精保実習Ｂ（医療機関実習）

※7／1～11／30 の期間に 12 日間かつ 90 時間

↓

精保実習Ｂ事後指導（精保演習Ｃ－2＋精保実習指導Ｂ－2）

※精保実習Ｂ受講年度の 12 月頃開講

１日め　精保実習指導Ｂ－2（４コマ）+ガイダンス

２日め　精保演習Ｃ－2（４コマ）

◆実習免除者（精保演習Ｃ：８コマ）

※8 月頃開講

１日め　精保演習Ｃ（４コマ）

２日め　精保演習Ｃ（４コマ）

科目の概要

■科目の内容

精神保健福祉援助実習では、配属された機関において、どのようなサービスを提供し、近隣にどのような関係機関があり、連携を図っているのかを理解しなければなりません。

具体的事例（生活のしづらさ、就労問題、低所得者、チームアプローチなど）を通して精神保健福祉援助技術の専門性の理解を図ります。

■到達目標

１）実習体験を通し感じたこと、学んだことを言語化できる。
２）支援者として何が求められているかが説明できる。
３）本人のニーズ、家族のニーズなどの把握とアセスメント、支援計画が立てられる。
４）様々な機関とのネットワーキングの必要性が説明できる。
５）病気の理解、職場との関係構築、様々な制度について説明できる。
６）ピアサポートの有効性・現状が理解でき、精神保健福祉士としての関わり方が説明できる。
７）貧困・低所得者実態が把握でき、活用できる各種制度が説明できる。
８）相談援助に求められている知識と技術についての自己評価ができる。
９）実習体験を客観的に評価できる。
10）チームアプローチの理解、病院ワーカーの役割などについて事例を通して理解して説明できる。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人と社会の理解力」「俯瞰的な分析力」「倫理的実践力」「開発・創造力」を身につけてほしい。

■科目の評価基準

演習内容（80%）+ 演習レポート（20%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■教科書・参考図書

【教科書】（「精保演習Ａ・Ｂ」と共通）

精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編『精神保健福祉士養成セミナー7 精神保健福祉援助演習［基礎］［専門］〈第６版〉』へるす出版、2017 年（改訂新版でも可）

（最近の教科書変更時期）2017 年４月

※「精保演習Ａ」で配本のため、この科目での教科書配本はありません。

（スクーリング時の教科書）資料配付・提示のほかに、上記教科書を使用する場合があります。

【参考図書】

１）一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟『最新 精神保健福祉士養成講座 7　ソーシャルワーク演習（精神専門）』中央法規出版、2021 年
２）福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 7　ソーシャルワーク演習（精神専門）』弘文堂、2022 年
３）久門道利他著『スタートライン社会学』弘文堂、2005 年

4 ）マーク・レーガン著、前田ケイ訳『リカバリーへの道』金剛出版、2005 年

スクーリング

■スクーリング受講申込上の注意

- この科目は、スクーリングの受講が必須となります（仙台でのみ開講）。
- 1 クラス 20 人以内の少人数で開講します。
- 受講料は 10,000 円となります。
- 受講許可証（メール）・納入依頼書は、各受講判定日以降に発送します。
- スクーリング開講日・申込締切日は、『試験・スクーリング情報ブック』または『With』を参照ください。
- 申込方法は、学生専用『ポータルサイト』または『With』でご案内します。
- クラス分けは無作為に行いますので、教員の指定はできません。
- 申込締切後の受講日程の変更は受け付けしません。必ずしも第一希望での受講ができない場合があります。ご了承ください。
- 公共交通機関の延着を除き、遅刻・欠席は認められません。また、スクーリング終了時間前の退席は認められません。

■スクーリング受講条件

【実習受講者】「精保演習Ｃ－1＋実習指導Ｂ－1」（実習Ｂ事前指導）スクーリング

【実習免除者】「精保演習Ｃ」（実習免除者用）スクーリング

※最新の受講条件は、申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』でご確認ください。

①受講 1 カ月前の指定期日までに達成

・「精神保健福祉援助演習Ｃ」1 単位めレポートの提出

②受講当日に提出

・『精神保健福祉援助実習Ｂ課題ノート』

③受講 1 カ月後の指定期日までに達成（実習免除者のみ※）

・「精神保健福祉援助演習Ｃ」2 単位めレポートの提出

※実習受講者は、「精保演習Ｃ－2＋実習指導Ｂ－2」（実習Ｂ事後指導）スクーリング受講後の指定期日までに提出

■スクーリング受講・単位認定について

※実習受講・免除者すべてに適用

演習のスクーリングにおいては、自己紹介、学生同士の話し合いや発表・ロールプレイなどの実施を予定しており、積極的な参加が求められます。

「精保演習Ｃ」の受講内容・成績によって評価が判定されます。

●単位認定

1 単位めレポート＋「精保演習Ｃ」スクーリング（スクーリング試験は実施しません）＋2 単位めレポートなどで総合的に単位認定いたします（前項「■科目評価基準」参照）。

２単位めレポートが再提出の場合は、再提出評価となったレポート到着後、指示された期日までに再提出を行わないとスクーリングの受講は無効になります。

この科目の最終スクーリング結果通知は、２単位めレポートの提出締め切り後に郵送またはメールで行います。

スクーリングを欠席・不合格の場合、合格済みの１単位めレポートは無効となります。次回以降の「精保演習Ｃ」を申込む際は、所定の期日までに再度「精保演習Ｃ」の１単位めレポートの提出を行ってください。

■スクーリングで学んでほしいこと

実習を通して学んだこと、感じたことを自分の言葉として表現でき、他者の評価と共に自己評価できるように、積極的にグループ討論などに参加してほしい。

将来、実践現場において実習で習得した知識と技術を活用できるよう、意識しながら学んでほしい。

■講義内容

回数	テーマ	内容
１	オリエンテーション	精神科医療機関における実習に向けたオリエンテーションならびに地域福祉計画などの諸施策、精神障害者の生活のしづらさの理解
２	専門的知識と技術の理解①	事例研究（退院支援・地域移行）についてグループワーク、ロールプレイ
３	専門的知識と技術の理解②	事例研究（危機状態への介入・入院形態）についてグループワーク、ロールプレイ
４	専門的知識と技術の理解③	事例研究（就労支援・リワーク）についてグループワーク、ロールプレイ
５	専門的知識と技術の理解④	事例研究（ピアサポート）についてグループワーク、ロールプレイ
６	専門的知識と技術の理解⑤	事例研究（貧困・低所得問題）についてグループワーク、ロールプレイ
７	実習体験に基づく包括的援助実践の習得①	相談援助に係る知識と技術の習得を目的に、実習における個別的体験に基づくグループワーク・個別面接指導
８	実習体験に基づく包括的援助実践の習得②	相談援助に係る知識と技術の習得を目的に、実習における個別的体験に基づくグループワーク・個別面接指導・まとめと総括

※実際のスクーリングは下記①～③の流れの通り「精保演習Ｃ」と「精保実習指導Ｂ」を組み合わせて開講する（前項「■演習・実習指導のコマ数と組み合わせ・開講の流れ」参照）。

①精保実習Ｂ事前指導（「精保演習Ｃ－1＋実習指導Ｂ－1」）２日間

↓

②精保実習Ｂ（医療機関実習）

↓

③精保実習Ｂ事後指導（「精保演習Ｃ－2＋実習指導Ｂ－2」）２日間

※担当教員により上記各コマの内容および「精保実習指導Ｂ」と組み合わせるテーマが異なる場合がある。

※実習免除者（「精保演習Ｃ」：８コマ）

１日め「精保演習Ｃ（４コマ）」＋2 日め「精保演習Ｃ（４コマ）」

■講義の進め方

演習はグループワーク中心に展開し、必要に応じて板書やＩＣＴの活用、資料配付などを行う。

■スクーリング　評価基準

演習内容（80%）＋演習レポート（20%）

※評価は総合的に行い、グループワークにおける協力や演習への積極的参加を求める。なお、評価基準については、教育プログラムの質的向上を目的に適宜見直しを図り、改定していく。

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

【実習受講者・実習免除者共通】

①次項「■在宅学習 15 のポイント」から予習しておくこと（前項「■講義内容」の各テーマに対応する「■在宅学習 15 のポイント」は次表を参照）。

テーマ	「在宅学習 15 のポイント」（回）	テーマ	「在宅学習 15 のポイント」（回）
１）	13・14	５）	９・10
２）	１・２	６）	５・６
３）	７・８	７）	15
４）	３・４	８）	15

②「精神保健福祉援助演習Ｃ」１単位めレポートを作成し、期日までに提出する。

③『精神保健福祉援助実習Ｂ課題ノート』を所定の部分まで完成させ、演習当日に持参し提出する。

④所定の期日までに演習受講申込受理・受講条件に定める科目の学習を終えていること（申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』参照）。

【実習受講者のみ】

精保実習 B 事前指導

①「精神保健福祉援助実習Ｂ計画（案）」【様式 14】を演習受講日ごとに定められた期日までに提出（「精保実習Ｂ」受講者のみ）し、最低 1 回の添削指導を受けてから受講に臨むこと（本冊子「精保実習指導Ｂ」「■レポート課題」、申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』の各演習・実習指導課題の期日を参照）。

②実習先などに提出する「実習生個人票」【様式 16】、「健康診断書」【様式 17】、「誓約書」【様式 18】、「実習機関への交通手段」【様式 19】、「実習先から配慮を希望する内容」【様式 20】（任意）の書類を完成させ、演習当日に持参し提出すること。

※冊子ならびに各様式は、「精保演習Ｃ－1＋実習指導Ｂ－1」ならびに「精保演習Ｃ（実習免除者用）」受講申込後にそれぞれ別途配付。

精保実習 B 事後指導

①「精保実習Ｂ事後レポート」を作成し、演習受講日ごとに定められた期日までに提出（申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』の各演習・実習指導課題の期日を参照）。

②『精神保健福祉援助実習Ｂ課題ノート』をすべて完成させ、演習当日に持参し提出する。

■スクーリング事後学習（学習時間の目安：20～25 時間）

【実習受講者・実習免除者共通】

「精神保健福祉援助演習Ｃ」２単位めレポートを作成し、期日までに提出する。

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	退院支援・地域移行 (実践編　第２章Ⅱ)	地域移行支援計画、サービス等利用計画について理解する。 キーワード：地域移行支援計画、サービス等利用計画	「精神保健福祉援助演習 B」の在宅学習のポイント第６回の教科書の事例から、地域移行支援、サービス等利用の各計画について「地域移行支援計画」、「サービス等利用計画（退院後）」を整理する。
2	地域生活支援 (実践編　第２章Ⅲ)	精神障害者が「地域で暮らしていく」ために必要な支援について理解する。 キーワード：就労継続支援（A 型※・B 型）事業所、リカバリー ※A 型について自身で調べること。	「精神保健福祉援助演習 B」の在宅学習のポイント第７回の教科書の事例から、A さんの「ジェノグラム」を作成し、想像を元に A さんの生活史を作成し、どのような支援が必要か整理する。
3	就労・雇用① (実践編　第２章Ⅰ)	精神障害者の就労支援を目的とした機関・制度・サービスについて理解する。 キーワード：ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、ジョブコーチ、就労移行支援事業、就労継続支援事業（A 型・B 型）、個別就労支援（IPS）	教科書の「1　事例のねらい」の③の用語および「個別就労支援（IPS）」について整理する。
4	就労・雇用② (実践編　第２章Ⅷ)	精神障害者の就労に向けた支援について理解する。 キーワード：ハローワーク、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、ジョブコーチ、就労移行支援事業、就労継続支援事業（A 型・B 型）、個別就労支援（IPS）	教科書の「1　事例のねらい」の③および用語の意味を理解した上で、教科書の事例から、本人の主体性を尊重した就労支援の展開について整理する。
5	ホームレス① (実践編　第２章Ｊ)	ホームレスの実態、ホームレス自立支援法について理解する。 キーワード：ホームレス、貧困、ホームレス自立支援法	教科書のホームレスの定義、ホームレス自立支援法について整理する。
6	ホームレス② (実践編　第２章Ｊ)	ホームレス状態にある人や社会生活に困難を抱えている人々に対するソーシャルワークの必要性について学ぶ。 キーワード：ホームレス、貧困、ホームレス自立支援法	教科書のホームレスの定義などを理解した上で、教科書の事例から、ホームレス状態にある人のニーズや社会資源との結びつけについて整理する。
7	精神科デイケア (実践編　第２章Ｋ)	精神科デイケアの目的と意義について理解する。 キーワード：精神保健福祉法、任意入院、医療保護入院、措置入院	デイケアプログラムの実際について事例から理解する。

8	精神科救急 (実践編　第２章 L)	精神科医療における多種連携と危機介入についてのソーシャルワーク実践について理解する。 キーワード：危機的状況、危機介入、任意入院、医療保護入院、措置入院	教科書の用語や精神科病院に入院する際の入院制度を理解した上で、教科書の事例から精神科急性期治療における精神保健福祉士の役割について整理する。
9	ピアサポート (実践編　第２章 M)	自助グループ、ピアサポートについて理解する。 キーワード：自助グループ（セルフヘルプ・グループ）、アルコホーリクス・アノニマス（AA）、ピアサポートグループ、当事者運営サービス、プロシューマー（ピアサポーター、ピアスタッフ、ピアスペシャリストなど）	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例から自助グループおよびピアサポート活動における精神保健福祉士の役割について整理する。
10	発達障害者支援 (実践編　第２章 N)	発達障害について理解する。 キーワード：発達障害者支援法・自閉スペクトラム症（ASD）・キャンパスソーシャルワーカー	発達障害者の特性と支援について整理する。
11	医療観察法の対象者 (実践編　第２章 O)	医療観察制度について事例から具体的に理解する。 キーワード：社会復帰調整官・ケア会議・WRAP・リスクアセスメントとクライシスプラン	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例から支援の流れについて整理する。
12	サービス評価 (実践編　第３章 E) 巻末の［資料］	ACT フィデリティ評価マニュアルを例に、サービス評価の目的と必要性を具体的に理解する。 キーワード：ACT フィデリティ評価マニュアル	教科書巻末の［資料］の ACT フィデリティ評価マニュアルを詳しく読みながら、何がどのように評価されるのか整理する。
13	地域福祉計画① (実践編　第３章 F)	「社会福祉基礎構造改革」「地域移行支援」「地域定着支援」について理解する。 キーワード：社会福祉基礎構造改革、地域移行支援、地域定着支援	教科書の「社会福祉基礎構造改革」「地域移行支援」「地域定着支援」の概要について整理する。
14	地域福祉計画② (実践編　第３章 F)	市町村における地域福祉計画作成の仕組みについて理解する。 キーワード：社会福祉基礎構造改革	教科書の用語を理解した上で、教科書の事例から当事者参加の地域福祉計画作成について整理する。

15	まとめ―実習を体験して (実践編　第４章　Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)	精神保健福祉援助実習の体験を踏まえ、精神保健福祉関係機関・施設の機能と精神保健福祉士の支援のあり方について理解する。 キーワード：生活支援の視点、かかわりの視点、アセスメントの姿勢、人と状況の全体性の視点、自己決定を尊重して促す原則、権利擁護の視点、人と状況の全体性の視点	教科書の内容をしっかりおさえてから、精神保健福祉援助実習における自身の体験を踏まえ、精神保健福祉関係機関・ 施設の機能と精神保健福祉士の支援のあり方について整理する。

■レポート課題

１単位め	**※スクーリング事前レポート（所定の期日までに提出）** 精神保健福祉専門職の援助を必要とする利用者は、その多くが悲しみや不安の中にあると考えられています。精神保健福祉問題（うつ病、アルコール問題、認知症、自殺などからいずれか一つ以上を選択）に関してあなたの考えを述べてください。 精神保健福祉士として、その課題に対して、今後どのような支援を展開していくのか、社会資源の活用を考慮しながら論じてください。
２単位め	**※スクーリング事後レポート（スクーリング受講後の所定の期日までに提出）** 社会的障壁（バリア）は、時として当事者の生きる気力や主体性を削いでしまいます。どのようなバリアがあるか考え、それらを取り除いていく支援・援助はどのように行われることが求められているか、精保実習Ａ・Ｂでの経験や自身の実践事例から述べてください。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

広義の精神保健福祉の対象を把握し、人間のライフサイクルに避けることのできない精神保健福祉問題を取り上げています。急激な社会変動（都市化、家庭の変容、地域社会の変容、情報社会）が人々に与えている影響の視点から述べるとよろしいです。

【2 単位めアドバイス】

精神保健福祉士は地域の人や家族の人との関係の温めなおし、条件整備、制度や政策の転換を図る対応も模索しなければなりません。例え病気や障害を背負うという困難な状況におかれても、人が人らしく生活をしていくために安全、安心を提供することが重要です。本人主体、リカバリーなどをキーワードにして考察してください。

■レポートの提出方法

１）１単位につき、１冊のレポート提出台紙を使用してください。

２）１単位のレポート文字数は、2,000 字程度ですが、最長 4,000 字程度まで記入していただいても結構です。
パソコン印字の場合→左右 40 字×30 行×2～4 枚まで可。

３）教員名の欄は記入しないでください。

４）各レポートは所定の提出締切日までに提出してください（申込時の『With』または『試験・スクーリング情報ブック』参照）。